

喜多方東高等学校及び耶麻農業高等学校の存続を求める意見書

福島県教育委員会は、2019 年 2 月 8 日、県立高等学校改革基本計画の 4 つの基本方針に沿って、「県立高等学校改革前期実施計画」（2019 年度～2023 年度）を公表した。

この計画では、本県の高等学校教育をめぐる変化として、人口減少、少子化の進行、高等学校の小規模化が本基本計画の背景にあるとし、基本方針 3 に「学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化」が掲げられ、その中の一項目として「望ましい学校規模への再編整備の推進」と明記され、2021 年度に喜多方東高等学校が喜多方高等学校と、2023 年度には耶麻農業高等学校が会津農林高等学校と統合することが示された。

一方で、その基本方針 4 には「過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の向上」が掲げられており、1 学年 1 学級規模の学校において、入学者が募集定員の 2 分の 1 以下になるなどの場合は存続を検討することや、近隣の学校との様々な連携を検討することが明記されている。

喜多方東高等高校は、1928 年に地域の女子教育を担う高等女学校として、地域の多くの方々の寄附によって設立され、1948 年には喜多方女子高等学校に、そして、2000 年には男女共学として喜多方東高等学校となり、現在に至っている。

また、耶麻農業高等学校は、1948 年に農業科と家庭科の山都高等学校として地域の方々の労務提供などによって設立され、1957 年に耶麻高等学校に、そして、1970 年には農業技術者育成に向け、耶麻農業高等学校となり、現在に至っている。

過疎、中山間地域にあって、人口減少が激しい本市では、学校の小規模化の中でそれぞれの学校が鋭意努力を重ね、地域との連携、特色ある教育に取り組んでいる。

喜多方東高等学校では、大学・短大・各種専門学校などの上級学校への進学や公務員・一般企業などへの就職を目指し、少人数授業や科目選択制を導入し、生徒一人一人の進路希望に合わせたカリキュラムを展開するとともに、書道部などの部活動やホームプロジェクト活動をとおした家庭クラブ活動などが活発に行われている。

また、耶麻農業高等学校では、介護職員初任者研修や、地元の特産物でもある

そばを活用したそば打ち体験と高校生によるそば店の開店等のキャリア教育に取り組むなど、それぞれの学校が地域にある学校として十分にその使命を果たしている。

これまで、喜多方地区においては、5つの県立高等学校が配置され、高等教育環境の充実が図られてきたところである。これが2校となってしまうことは、地域の生徒の進路選択と学ぶ場を狭めるだけでなく、地域経済への影響は計り知れないものがある。

よって、本市議会は、関係機関に対し、下記事項について強く要望する。

記

喜多方東高等学校と耶麻農業高等学校を存続すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年6月20日

喜多方市議会議長 齋 藤 勘一郎

【意見書提出先】

福島県知事 内堀 雅雄 殿

福島県教育委員会教育長 鈴木 淳一 殿